

## 【知事定例記者会見】 8月25日（金）

### ● 佐賀県も全力で盛り上げます！いよいよ開催 燃ゆる感動 かがしま国体・大会 佐賀と鹿児島“双子の大会”

本来、かがしま国体は2020年に開催予定だったが、コロナ禍で中止。佐賀が2023年開催を鹿児島に譲り、佐賀の開催は翌年2024年にずれた。

ただ、「初めての国スポ」のコンセプトは維持できるように、東京のスポーツ協会へも働きかけた。鹿児島は最後の特別国体、佐賀が初めての国スポになる。

国体は全国を3つのブロックに分けて、順に開催している。今回のように九州が連続するのは初めて。そこで、両県の間関係を深めながら、ともに盛り上げようと決まった。

### ターゲットエイジの活躍の場を確保

新体操の少年男子は、15年ぶりに佐賀大会からの正式競技復活が決まっていた。ところが、本来2020年に開催予定の鹿児島には新体操競技がない。そこで、出場機会を失った選手のために全国大会を特別開催してほしいと申し入れ、正式競技の体操の翌日に同じ会場で開催できることになった。

佐賀県からは神崎清明高校、鹿児島県からは鹿児島実業高校、それ以外の各ブロックからは選抜9チームの出場が決まった。

ターゲットエイジへの応援機会を確保するため、ターゲットエイジの試合を動画配信する。正式競技の全試合を予選から中継するので、動画で応援したり、現場へ行って応援してほしい。

### 両県の絆を深化！佐賀・鹿児島エールプロジェクト

アスリートの交流、鹿児島からの修学旅行、鹿児島でのSAGA BAR開催、佐賀さいこ企画甲子園に鹿児島から出場など、多くの企画が広がっている。

9月9日から11月5日まで、鹿児島・佐賀の「絆展」をかがしま国体で行う。オープニングは、9月9日に鹿児島のセンテラス天文館で開催。その後、アミュプラザ、鹿児島空港、鹿児島県庁、イオンモール鹿児島の全5か所を巡回する。来年は、佐賀で同

様に「絆展」を開催する予定。

### 開会式でも“双子の大会”を盛り上げます！

かごしま国体の開会式は 10 月 7 日。佐賀・鹿児島両県の踊り手が“さが維新おどり”を踊る。また、両県の高校生がアナウンスを担当する。佐賀県からは、清和高校の副島葉月さんが出演。トークショーでは、両県にゆかりのある迫田孝也さんが出演する。彼は鹿児島出身で、大河ドラマで江藤新平を演じた。

鹿児島から佐賀、国体から国スポへバトンをつなぎ、明治維新で両県が新しい世を切り開いたように、ともに未来に向けて新時代を築きたい。

### ● 交通事故のない安全・安心な佐賀県を目指して

#### 「SAGA BLUE PROJECT」とは

佐賀県の人口 10 万人あたりの交通事故数は、ワースト 1 が続いている。これを脱却するため、ハードとソフトの両面で交通事故を防ぐための取り組みが「SAGA BLUE PROJECT」。

折れ線グラフが事故発生件数。緊急プロジェクトから「SAGA BLUE PROJECT」を展開し、ワースト 1 からは脱却したが、件数は相変わらず多い。

棒グラフが死者数。死者数も悪い方から 1 桁が続いていたが、近年改善し、今年は今時点で全国最小。10 万人あたりの数字でも、東京に次いで 2 番目に少ない。減少の理由が「SAGA BLUE PROJECT」なのか、今後分析の必要がある。

令和 3、4 年の死者数が 23 人。この数字は、昭和 25 年の 22 人とほぼ同じ。当時の県内の自動車保有数は 3,300 台、現在は 67 万台。ほとんど車を見かけない時代と死者数が同じ。事故数が多いのは課題だが、死者数が減少し効果が出ている。今後も取り組みを強化し、死者数ゼロを実現したい。

### 道路交通環境の整備

強化する取り組みの 1 つはハンプの設置。スピードが遅くなると死亡事故の確率が大幅に減る。学校校区など地域と話し合いながら造っている。

次に、狭さく（きょうさく）。これは、通行幅を物理的に狭めて減速を促すもの。

データでは、衝突時の速度が時速 30 キロ以下であれば、致死率は4分の1になる。命を守るため、この事業を推進する。

次に、ラバーポールの設置。佐賀の道路には中央分離帯がなく、右レーンの車が突然右折し、追突事故につながる。また、事故の多い交差点にも車止めを設置し、歩行者を巻き込む事故を抑制する。

これらの対策によって不便になるとのご意見もあるだろう。しかし、命を大事にすることを優先する県でありたい。

### 運転免許を返納された高齢者をサポート

令和4年8月1日から、県内全域で、免許証を自主返納した高齢者にタクシー運賃2割引きを実施。これは、佐賀県だけ。サービス利用状況も前年に比べ増加。

この効果もあり、全国で高齢者の運転免許証の返納が上昇したのは佐賀県のみ。また、佐賀県は高齢者の加害事故件数が減っている。

### SAGA BLUE PROJECT アンバサダー任命

衝突事故は、若い人が多い。久光の新鍋さん、サガン鳥栖の高橋さん、バルーナーズの角田さんにアンバサダーになってもらい、若い人への啓発を強化したい。

様々な取り組みで「BLUE PROJECT」を推進している。どの取り組みの効果が高いのかは不明だが、啓発活動が効果を生んでいる。以前に比べ、横断歩道で止まる車が増えている。交通事故死者数ゼロを目指したい。

#### ・SAGA Night art Project 「WONDER AQUA」開演

第8弾は、佐賀城公園で開催する。ホロゲート／ホロケイブという3Dホログラムシステムを使い、3Dで泳ぐ魚と一緒に写真の撮影できる。これを一般向け体験型コンテンツで展開するのは全国初。アクアドーム、アクアサークル、ライトアップをしながら、佐賀城公園内で水族館の中にいるような感覚が体験できる。

9月29日から11月26日まで、料金は1,000円、県民は700円、小学生未満は無料。

・ SAGA ART PATH（サガアートパス）が誕生しました

博物館・美術館南側は、生け垣や樹木を配置しすぎて人が入りにくい区画になっていた。そこで、県民の皆さんが散歩できるよう整備した。

・ 10月20日北山キャンプ場オープン！

先日、レイクサイド北山の 111m スライダーが先行オープンした。いよいよキャンプ場がオープンする。波戸岬キャンプ場は、運営方法が変わり盛況を呈している。指定管理料が不用になった上、逆に盛況のため収入が入るようになった。この成功を北山でもと考えた。バリエーションが 79 あり。レンタル用品が充実していて、何も持たずに来てもキャンプが楽しめる。日帰りバーベキュー、ペット可、お湯の出る洗い場など施設を整備した。10月18日がセレモニー、20日にオープンする。

波戸岬、北山、吉野ヶ里公園でグランピングを楽しめるようにしたい。

・ サガンスギの強さの秘密は細胞壁にありました

県が 56 年をかけて開発したサガンスギ。成長が早く 30 年で出荷でき、花粉が半分以下、強度も 1.5 倍ある。その強度のメカニズムを明らかにするため、シンクロトン光で科学的に証明した。

従来のスギは、細胞片の傾斜角が 33 度、サガンスギは 18 度だと、シンクロトン光で科学的に解明された。これは、遺伝するとも判明した。

強い強度のサガンスギが、佐賀の森をつくっていくと確証が得られた。

・ 新たなスポーツビジネスの創出へ！ともに挑戦する企業を募集しています

単なるスポーツではなく、関連ビジネスを含めスポーツによるまちづくりをしたい。スポーツで稼げる地域をつくっていく。

今年 6 月、スポーツ庁の「S0IP（スポーツオープンイノベーションプラットフォーム）パートナー」に自治体で初めて選ばれた。例えば、バルナーズの集客方法や地域経済への貢献方法をどうするか。久光スプリングスなら、拠点が移ったばかりなので知名度をどう向上するか、女性スポーツの推進方法。山岳・スポーツクライミング連盟であれば、競技への関心、ファン獲得方法などの課題がある。それに対して民間企業が手を挙

げ、連携しスポーツビジネスを創出していく取り組み。国の助成金がつく事業を得て、自治体として初めて佐賀県が取り組めば、新たなスポーツビジネスにも弾みがつく。